

# 平成26年度「全国学力・学習状況調査」の調査結果について

平成26年12月 1日  
江別市教育委員会

## I 調査の概要

### 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

### 2 調査の対象学年及び調査を実施した学校・児童生徒数

	対象学年	実施学校数(校)	児童生徒数(人)
小学校	第6学年	19	1,042
中学校	第3学年	8	1,079
合計		27	2,121

### 3 調査の内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数・数学)
  - ・主として「知識」に関する問題～国語A、算数・数学A
  - ・主として「活用」に関する問題～国語B、算数・数学B
- (2) 質問紙調査
  - ・児童生徒に対する質問紙調査～学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等
  - ・学校に対する質問紙調査～指導方法に関する取組、教育条件の整備の状況等

### 4 調査方式

全数調査(対象は小学校6年生、中学校3年生)

### 5 調査期日

平成26年4月22日(火)

## II 結果の概要

### 1 教科に関する結果の概要

#### (1) 小学校

平均正答率は、国語A・B、算数A・Bともに北海道を上回り、国語Aは2.2ポイント全国を上回っています。国語Bは1.1ポイント、算数Aは0.3ポイント、算数Bは1.4ポイント全国を下回っています。

#### (2) 中学校

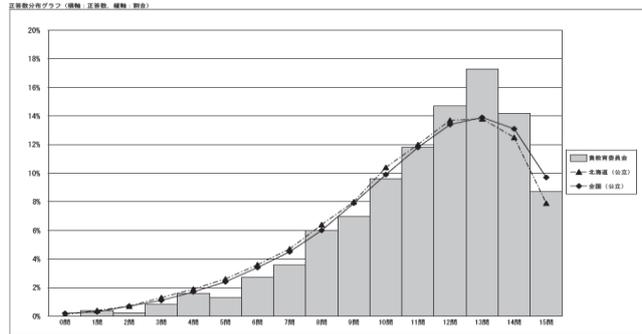
平均正答率は、国語A・B、数学A・Bともに北海道を上回り、国語Aは0.8ポイント、国語Bは1.0ポイント、数学Aは0.9ポイント、数学Bは2.8ポイント全国を上回っています。

### 2 質問紙調査に関する結果の概要

- 平日に3時間以上テレビやビデオ見る割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を下回っています。平日にテレビゲームを3時間以上する割合は、中学校3年生は0.5ポイント全国平均を下回っていますが、小学校6年生は2.1ポイント上回っています。いずれも、昨年度より増加してきています。
- 「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う」、「礼儀正しいと思う」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を大きく上回っており、江別市の学校は大変落ち着いた状態にあると言えます。
- 算数・数学の授業でパソコンや電子黒板、実物投影機等を活用して授業を行った割合は全国平均を大きく上回り、ICT(情報通信技術)を活用した授業が積極的に行われています。

### Ⅲ 各教科の結果

#### 1 小学校 「国語A」 <正答数分布グラフ>



※棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)

国語A	平均正答数	平均正答率
江別市	11.3/15	75.1
北海道	10.8/15	71.8
全国	10.9/15	72.9

領域	設問数	江別市	北海道	全国
話す・聞く	1	74.9	70.5	72.4
書く	3	73.2	70.1	72.2
読む	2	71.0	67.6	68.5
伝統的な・・・	12	75.8	72.6	73.7

※複数の領域にまたがる設問もあります。

#### <結果>

- 平均正答率は75.1%で、北海道を3.3ポイント、全国を2.2ポイント上回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は「話すこと・聞くこと」が2.5ポイント、「書くこと」が1.0ポイント、「読むこと」が2.5ポイント、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が2.1ポイント、いずれも全国を上回っており、国語に関する基礎的・基本的な知識や技能は身に付いていると思われます。

#### <正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

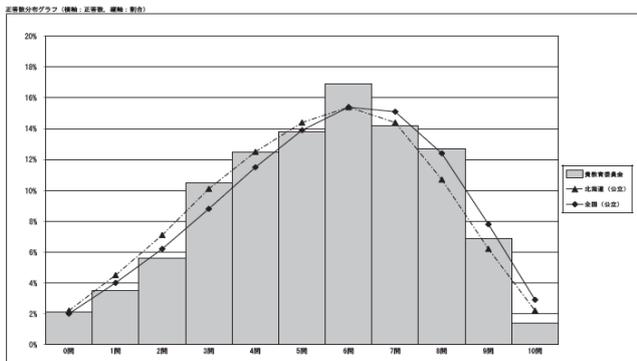
##### ■「漢字を書く(勝利をいわう)」

- 新出漢字を繰り返し書いたり既習の漢字を意図的に復習したりすることができるようにするほか、国語以外の授業でも手紙や文章作成時に意味を考えながら正しく使うよう指導する必要があります。

##### ■「言葉の意味と使い方を捉え、国語辞典を使って(はかる)の言葉の意味と使い方を理解する」

- 国語辞典を利用することを習慣づけるとともに、同音異義や同訓異義の漢字を意図的に取り上げ、意味のちがいを理解できるように指導する必要があります。

#### 2 小学校 「国語B」 <正答数分布グラフ>



国語B	平均正答数	平均正答率
江別市	5.4/10	54.4
北海道	5.3/10	52.9
全国	5.5/10	55.5

領域	設問数	江別市	北海道	全国
話す・聞く	3	50.1	49.2	51.2
書く	3	31.2	30.7	34.4
読む	7	56.2	54.5	57.3
伝統的な・・・	2	70.2	68.0	69.8

#### <結果>

- 平均正答率は54.4%で、北海道を1.5ポイント上回り、全国を1.1ポイント下回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が0.4ポイント全国を上回っていますが、「話すこと・聞くこと」が1.1ポイント、「書くこと」が3.2ポイント、「読むこと」が1.1ポイント全国を下回っており、特に、自分の考えや内容をまとめて書くことに課題が見られます。

#### <正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

##### ■「立場を明確にして、質問や意見を述べる」

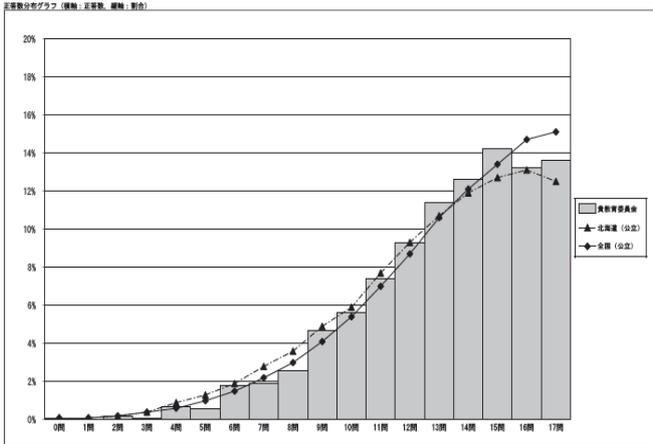
- 討論会等において、相手の話の内容を十分聞き取り、根拠に基づき互いの立場や意見の違いを明らかにして話すことができるように指導する必要があります。

##### ■「二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く」

- 詩の解釈について交流する際、詩を読む目的を明確にして、感想、解説、推薦などの文章として考えをまとめ、積極的に自分の考

えを発表し合うことができるよう指導する必要があります。

### 3 小学校 「算数A」 <正答数分布グラフ>



※棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)

算数A	平均正答数	平均正答率
江別市	13.2/17	77.8
北海道	12.9/17	75.8
全国	13.3/17	78.1

領域	設問数	江別市	北海道	全国
数と計算	8	80.3	79.6	81.8
量と測定	3	75.0	72.6	74.8
図形	4	72.7	69.0	71.8
数量関係	3	83.0	79.6	81.3

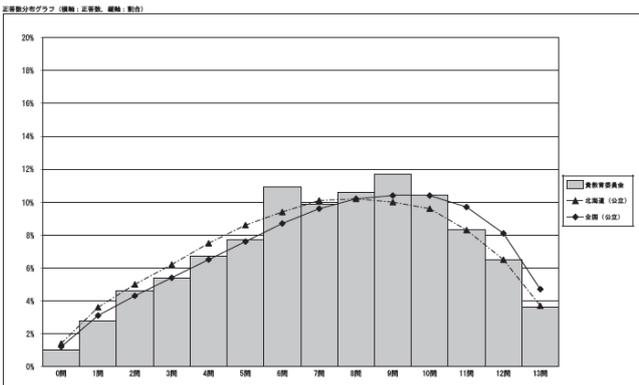
#### <結果>

- 平均正答率は77.8%で、北海道を2.0ポイント上回り、全国を0.3ポイント下回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は「量と測定」が0.2ポイント、「図形」が0.9ポイント、「数量関係」が1.7ポイント全国を上回り、「数と計算」が1.5ポイント下回っています。平均正答率の全国との差は小さく、算数に関する基礎的・基本的な知識や技能は身に付いていると思われます。

#### <正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

- 「赤いテープの長さが白いテープの長さ(80cm)の1.2倍に当たるときの赤いテープの長さを求める式を選ぶ」
  - ・割合(倍)が整数である場合の計算の考え(基準量×割合)を基にして、1.5倍や0.5倍に当たる量がそれぞれ $80 \times 1.5$ 、 $80 \times 0.5$ で求められることを説明する活動を取り入れ、乗法が用いられることが判断できるよう指導する必要があります。
- 「コンパスを使った平行四辺形のかき方について、用いられた平行四辺形の特徴を選ぶ」
  - ・作図の指導においては、単に作図の手順を形式的に指導するだけでなく、その図形がどのような約束や性質を使っているのかを考え、それを基に作図できるよう指導する必要があります。

### 4 小学校 「算数B」 <正答数分布グラフ>



算数B	平均正答数	平均正答率
江別市	7.4/13	56.8
北海道	7.2/13	55.2
全国	7.6/13	58.2

領域	設問数	江別市	北海道	全国
数と計算	8	59.2	58.1	61.3
量と測定	5	56.2	53.6	56.5
図形	1	66.4	64.6	65.7
数量関係	5	53.7	52.7	56.2

#### <結果>

- 平均正答率は56.8%で、北海道を1.6ポイント上回り、全国を1.4ポイント下回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は「図形」が0.7ポイント全国を上回り、「数と計算」が2.1ポイント、「量と測定」が0.3ポイント、「数量関係」が2.5ポイント下回っています。「数と計算」や「数量関係」の領域に課題が見られます。

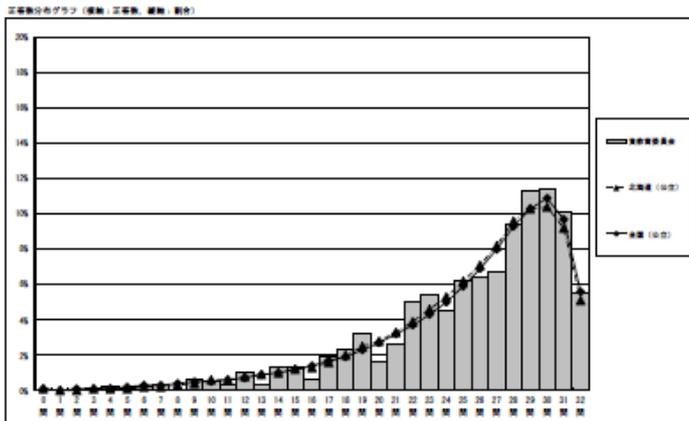
#### <正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

- 「二人の説明を基に、 $37 \times 24$ の積が888になることを書く」
  - ・ $37 \times 24 = 888$ の計算に当たっては、 $37 \times 3 = 111$ に着目した二人の説明から、24は $3 \times 8$ とみて、 $(37 \times 3) \times 8$ と変形できること

など乗数を多面的に見ることやより合理的、能率的に処理するよう指導する必要があります。

- 「示された分け方でスープを分けたとき、残りの30人にスープを分けることができるかどうかを選び、そのわけを書く」
- ・30人に必要なスープの量と10人に分けた後のスープの量を比較して、スープが残ることを説明することができるよう、説明として何が不足しているのかについて考え、課題に応じた説明へと組み立てていく活動を取り入れ、指導する必要があります。

## 5 中学校 「国語A」 <正答数分布グラフ>



※棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)

国語A	平均正答数	平均正答率
江別市	25.6/32	80.2
北海道	25.4/32	79.4
全国	25.4/32	79.4

領域	設問数	江別市	北海道	全国
話す・聞く	4	75.4	72.5	72.3
書く	6	84.1	82.9	83.4
読む	5	81.9	82.0	82.9
伝統的な・・・	17	79.4	79.0	78.7

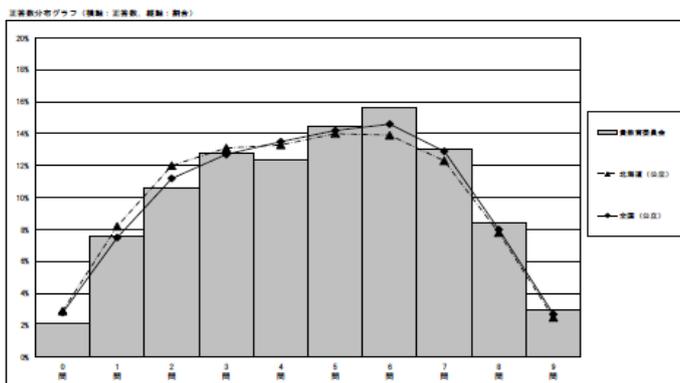
### <結果>

- 平均正答率は80.2%で、北海道を0.8ポイント、全国を0.8ポイント上回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は「話すこと・聞くこと」が3.1ポイント、「書くこと」が0.7ポイント、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が0.7ポイント全国を上回っており、「読むこと」は1.0ポイント下回っています。平均正答率が全国を上回っており、国語に関する基礎的・基本的な知識や技能は身に付いていると思われます。

### <正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

- 「漢字を読む (アユの稚魚を放流する)」
  - ・漢字は、一字一字を正確に読み書きできるようにするほか、文脈の中で適切に使えるようにするため、既習の漢字を積極的に使用したり、知らない熟語の意味をその漢字の訓読みから推測したりする機会を意図的に取り入れ、指導する必要があります。
- 「生徒の落書きを見たときの主人公の心情を説明したものとして適切なものを選択する」
  - ・文学的な文章では、作品の語り方の特徴や登場人物の心情などについて、交流しながら理解を深めるとともに、新しく出会ったり、気になったりした語句を辞書を引いて確かめるよう指導する必要があります。

## 6 中学校 「国語B」 <正答数分布グラフ>



国語B	平均正答数	平均正答率
江別市	4.7/9	52.0
北海道	4.5/9	49.9
全国	4.6/9	51.0

領域	設問数	江別市	北海道	全国
話す・聞く	0			
書く	3	42.2	39.2	41.0
読む	8	50.2	47.9	49.2
伝統的な・・・	4	57.9	55.3	56.8

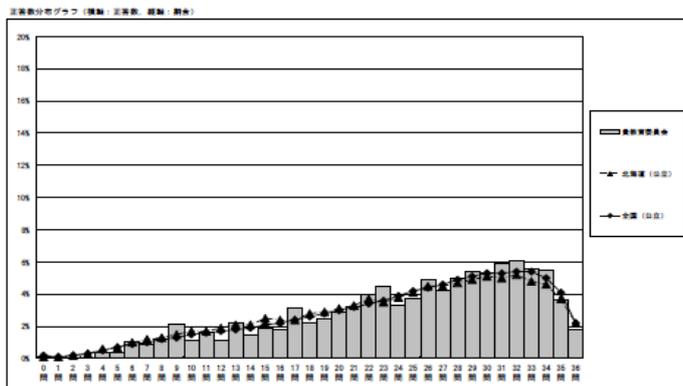
### <結果>

- 平均正答率は52.0%で、北海道を2.1ポイント、全国を1.0ポイント上回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は「書くこと」が1.2ポイント、「読むこと」が1.0ポイント、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が1.1ポイント全国を上回っており、国語に関する活用力は身に付いていると思われます。

＜正答率の低い設問及び学習指導の改善点＞

- 「本とインターネットの内容を比較した時の説明として適切なものを選択する」
  - ・ 説明的な文章では、中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、段落ごとに内容の大体を捉えたり、大きな意味のまとまりに分けて文章全体における役割を明らかにしたりする活動を取り入れ、指導する必要があります。
- 「水の中に浸すと、切手をきれいにはがすことができる理由を書く」
  - ・ 本や文章などから適切な情報を得て自分の考えをまとめることや伝えたい事実や事柄を根拠を明確にして書くことができるよう、授業の中で複数の情報の内容を正確にとらえ、目的に応じて組み立てて説明する機会を取り入れ、指導する必要があります。

7 中学校 「数学A」 <正答数分布グラフ>



※棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)

数学A	平均正答数	平均正答率
江別市	24.6/36	68.3
北海道	23.8/36	66.0
全国	24.3/36	67.4

領域	設問数	江別市	北海道	全国
数と式	12	77.4	75.7	77.4
図形	12	67.1	65.1	66.4
関数	8	59.9	56.9	58.0
資料の活用	4	61.3	58.3	59.1

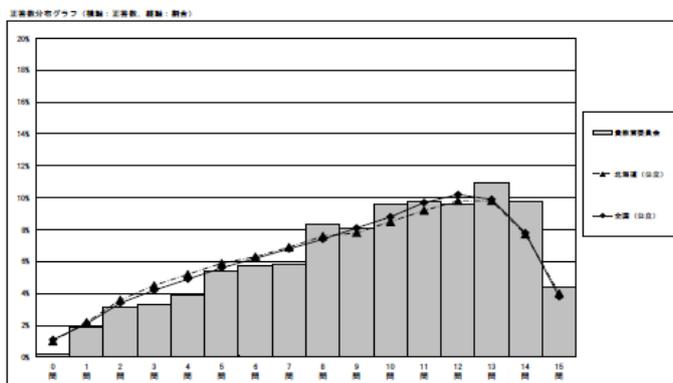
＜結果＞

- 平均正答率は68.3%で、北海道を2.3ポイント、全国を0.9ポイント上回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は「数と式」が全国と同様であり、「図形」が0.7ポイント、「関数」が1.9ポイント、「資料の活用」が2.2ポイント、いずれも全国を上回っており、数学に関する基礎的・基本的な知識や技能は身に付いていると思われます。

＜正答率の低い設問及び学習指導の改善点＞

- 「-7の絶対値を書く」
  - ・ 数直線上に原点からある数までの距離を求める場面を設定し、-7は原点との距離が7であることから、絶対値は7であることを捉えられるよう指導する必要があります。
- 「与えられた表を基に、宅配サービスの重量と料金の関係を、(…は…の関数である) という形で表現する」
  - ・ さまざまな事象の考察を通して関数の意味を理解できるようにするために、日常的な事象の中にある2つの数量の変化や対応の様子を調べ、それらの関係を見出す活動を取り入れ、指導する必要があります。

8 中学校 「数学B」 <正答数分布グラフ>



数学B	平均正答数	平均正答率
江別市	9.4/15	62.6
北海道	8.9/15	59.4
全国	9.0/15	59.8

領域	設問数	江別市	北海道	全国
数と式	3	59.6	55.4	56.9
図形	5	60.3	58.2	58.6
関数	5	68.4	65.0	64.4
資料の活用	2	58.5	54.1	55.9

＜結果＞

- 平均正答率は62.6%で、北海道を3.2ポイント、全国を2.8ポイント上回っています。

- 学習指導要領の領域の平均正答率は「数と式」が2.7ポイント、「図形」が1.7ポイント、「関数」が4.0ポイント、「資料の活用」が2.6ポイント、いずれも全国を上回っており、数学に関する活用力は身に付いていると思われます。

#### ＜正答率の低い設問及び学習指導の改善点＞

- 「図形の性質を用いて、横断幕が木に全く隠れない最も低い位置を求める方法を言葉や図で説明する」
  - ・ 日常的な事象を数学を活用して解決できるようにするためには、事象を理想化・単純化して図に表す一連の活動を通して、観察者の視線を表す線を引くことで横断幕の位置が求められるようにする活動を取り入れ、指導する必要があります。
- 「 $AB=AC$  の二等辺三角形の辺  $BC$  上に  $BD=CE$  となる点  $D$ 、点  $E$  をとり、 $\angle BAC=110^\circ$ 、 $BD=AD$  のとき、 $\angle DAE$  の大きさを求める」
  - ・ 証明の過程や結論を基に、発展的に考えることができるようにするためには、与えられた性質を証明するだけでなく、証明を振り返り、その過程で見出した事柄や証明された事柄に着目し、新たな性質を見出す活動を取り入れ、指導する必要があります。

## IV 質問紙調査の結果

### 1 「児童・生徒質問紙」

#### (1) 家庭の生活

##### ① 朝食を「毎日食べている」、「どちらかといえば毎日食べている」

- ・ 小学校6年生 95.1%で、昨年度より0.1ポイント低く、全国平均より0.9ポイント低い。
- ・ 中学校3年生 92.8%で、昨年度より1.4ポイント低く、全国平均より0.7ポイント低い。

##### ② 「毎日同じくらいの時刻に寝ている」、「どちらかといえば同じくらいの時刻に寝ている」

- ・ 小学校6年生 79.4%で、昨年度より4.8ポイント高く、全国平均より0.2ポイント高い。
- ・ 中学校3年生 74.6%で、昨年度より2.8ポイント高く、全国平均より0.5ポイント高い。

児童生徒の朝食摂取や就寝時刻については、昨年より改善傾向にあり全国平均と同様の数値となっていますが、朝食を「あまり食べていない」、「全く食べていない」割合が5～7%おり、学校、家庭、地位等が連携して改善に向けた取組をさらに充実する必要があります。

#### (2) 自己肯定感

##### ① 難しいことでも「失敗を恐れなくて挑戦している」、「どちらかといえば挑戦している」

- ・ 小学校6年生 72.6%で、昨年度より3.6ポイント高く、全国平均より2.5ポイント低い。
- ・ 中学校3年生 69.8%で、昨年度と増減がなく、全国平均より1.8ポイント高い。

##### ② 自分には、よいところが「あると思う」、「どちらかといえばあると思う」

- ・ 小学校6年生 71.5%で、昨年度より4.1ポイント高く、全国平均より4.6ポイント低い。
- ・ 中学校3年生 63.3%で、昨年度より3.2ポイント低く、全国平均より3.8ポイント低い。

##### ③ 将来の夢や目標を「もっている」、「どちらかといえば、もっている」

- ・ 小学校6年生 85.0%で、昨年度より0.4ポイント低く、全国平均より1.7ポイント低い。
- ・ 中学校3年生 71.7%で、昨年度より3.6ポイント低く、全国平均より0.3ポイント高い。

難しいことへの挑戦意欲や自己肯定感、将来の目標等については、小学校6年生はいずれも全国平均を下回り、中学校3年生は自己肯定感が下回っています。市内の小・中学校では、一人一人のよさや可能性を見付けて伝えたり、将来就きたい仕事や夢について考えさせたりする指導が全国より高い割合で実施されていますが、家庭や地域等と連携しさらに充実する必要があります。

#### (3) テレビの視聴やゲーム

##### ① 平日にテレビやビデオ・DVDを3時間以上見る(テレビゲームは除く)

- ・ 小学校6年生 37.6%で、昨年度より1.6ポイント高く、全国平均より0.4ポイント低い。
- ・ 中学校3年生 30.3%で、昨年度より1.9ポイント高く、全国平均より1.2ポイント低い。

##### ② 平日にテレビゲームを3時間以上している(コンピュータ、携帯式ゲームも含む)

- ・ 小学校6年生 19.1%で、昨年度より1.4ポイント高く、全国平均より2.1ポイント高い。
- ・ 中学校3年生 19.8%で、昨年度より4.1ポイント高く、全国平均より0.5ポイント低い。

テレビ等の視聴やゲームの時間については、全国平均と同様かやや下回っていますが、前年度より増えています。テレビ等を見たりゲームを行ったりする時間帯や時間を家庭内で約束として決めるなど、家庭と一体となって学習時間の確保や望ましい生活習慣を確立する取組を進める必要があります。

#### (4) 学校の授業以外の勉強

##### ① 平日に、学校の授業以外に1時間以上勉強する(学習塾や家庭教師に教わっている時間も含む)

- ・小学校6年生 52.9%で、昨年度より0.4ポイント高く、全国平均より9.1ポイント低い。
- ・中学校3年生 61.6%で、昨年度より5.9ポイント低く、全国平均より6.3ポイント低い。

##### ② 休日に、学校の授業以外に1時間以上勉強する(学習塾や家庭教師に教わっている時間も含む)

- ・小学校6年生 52.9%で、昨年度より0.3ポイント低く、全国平均より3.0ポイント低い。
- ・中学校3年生 68.8%で、昨年度より1.4ポイント低く、全国平均より1.4ポイント高い。

##### ③ 家で、自分で「計画を立てて勉強している」、「どちらかといえば、している」

- ・小学校6年生 68.2%で、昨年度より8.2ポイント高く、全国平均より7.2ポイント高い。
- ・中学校3年生 51.2%で、昨年度より5.8ポイント高く、全国平均より4.6ポイント高い。

家庭学習については、小・中学生ともに自分で計画を立てて、授業の復習を中心に勉強している割合は全国平均を上回っていますが、平日に1時間以上家庭学習をしている割合が大きく下回っています。

家庭学習は学習内容を確実に身に付けるために必要であり、学校からの宿題はもとより各家庭において学習に取り組む時間帯やテレビを見る時間、ゲームをする時間等について望ましい生活習慣を確立し、休日も含め毎日取り組むようにする必要があります。なお、学習塾に通っていない割合は、小学校6年生は12.7ポイント、中学校3年生は12.5ポイント全国平均を上回っています。

#### (5) 学校生活

##### ① 学校に行くのは「楽しいと思う」「どちらかといえば、そう思う」

- ・小学校6年生 84.4%で、昨年度より0.7ポイント高く、全国平均より2.2ポイント低い。
- ・中学校3年生 80.3%で、昨年度より4.9ポイント高く、全国平均より2.1ポイント低い。

##### ② 先生は、よいところを「認めてくれる」、「どちらかといえば認めてくれる」

- ・小学校6年生 82.7%で、全国平均より3.0ポイント高い。
- ・中学校3年生 73.6%で、全国平均より0.5ポイント低い。

学校に行くのは楽しいと思う割合は、小・中学生ともに2ポイント程度全国平均を下回っていますが、前年度より増加しています。

学校では、より分かりやすい授業の実施や行事等で協力してやり遂げる喜びを味わえるようにするほか、受容的な人間関係の醸成など、集団における所属感や成就感をより一層高めていく必要があります。

#### (6) 社会に対する興味・関心

##### ① 地域や社会で起こっている問題や出来事に「関心がある」、「どちらかといえば、関心がある」

- ・小学校6年生 61.4%で、昨年度より7.2ポイント高く、全国平均より1.5ポイント低い。
- ・中学校3年生 57.5%で、昨年度より4.1ポイント高く、全国平均より1.9ポイント高い。

##### ② 新聞を「ほぼ毎日読む」

- ・小学校6年生 9.7%で、全国平均より0.3ポイント低い。
- ・中学校3年生 9.8%で、全国平均より1.8ポイント高い。

社会に対する興味・関心については、中学校3年生は全国平均をやや上回り、小学校6年生はわずかに下回っています。新聞を「ほぼ毎日読む」児童生徒は、「ほとんど、または全く読まない」児童生徒と比べ、国語、算数・数学の平均正答率が高い傾向にあり、また、社会の出来事に関心をもたせ、必要な情報を取捨選択する能力を育成する観点からも、新聞を読んだりニュース番組を見たりする習慣を身に付けさせることが大切です。

#### (7) 思いやり

##### ① 人の気持ちが分かる人間に「なりたいと思う」、「どちらかといえば、なりたいと思う」

- ・小学校6年生 95.5%で、昨年度より1.6ポイント高く、全国平均より1.1ポイント高い。
- ・中学校3年生 94.7%で、昨年度と増減がなく、全国平均より0.6ポイント低い。

##### ② 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」

- ・小学校6年生 83.6%で、昨年度より1.9ポイント高く、全国平均より1.5ポイント高い。
- ・中学校3年生 73.4%で、昨年度より0.8ポイント低く、全国平均より1.3ポイント高い。

「いじめは、どんな理由があってもいけないと思う」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を上回っていますが、現在、各学校で実施されているいじめ根絶に向けたアンケートや児童生徒主体の集会活動を継続するとともに、人への思いやりや規範意識をはぐくむ道徳教育を一層充実していくことが大切です。

## (8) 読書習慣

### ① 読書は「好きだ」、「どちらかといえば好きだ」

- ・小学校6年生 74.7%で、昨年度より0.1ポイント低く、全国平均より1.7ポイント高い。
- ・中学校3年生 74.6%で、昨年度より1.0ポイント低く、全国平均より5.2ポイント高い。

### ② 学校の授業時間以外に、「平日、1日30分以上読書をする」(教科書、漫画や雑誌を除く)

- ・小学校6年生 37.1%で、昨年度より2.6ポイント高く、全国平均より1.1ポイント低い。
- ・中学校3年生 34.3%で、昨年度より0.9ポイント高く、全国平均より2.9ポイント高い。

読書が好きな割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を上回っています。江別市の各学校では、朝読書の実施やボランティアによる読み聞かせ、市の情報図書館司書の巡回等による図書館の整備など、読書環境の充実が図られています。

## 2 「学校質問紙」

### (1) 学習態度、礼儀正しさ

#### ① 「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う」

- ・小学校6年生 63.2%で、昨年度より21.1ポイント高く、全国平均より26.7ポイント高い。
- ・中学校3年生 100%で、昨年度より37.5ポイント高く、全国平均より53.8ポイント高い。

#### ② 「礼儀正しいと思う」

- ・小学校6年生 47.4%で、昨年度より5.3ポイント高く、全国平均より20.4ポイント高い。
- ・中学校3年生 87.5%で、昨年度より25.0ポイント高く、全国平均より50.7ポイント高い。

「授業中の私語が少なく、落ち着いている」、「児童生徒は礼儀正しい」割合は、全国平均を大きく上回っています。各学校では、私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、授業開始のチャイムを守るなど、学習規律が丁寧に指導されており、江別市の小・中学校は大変落ち着いた状態にあると言えます。

### (2) 長期休業中の学習サポート

#### ① 前年度に、延べ「5日以上実施した」

- ・小学校6年生 63.2%で、昨年度より5.3ポイント高く、全国平均より34.6ポイント高い。
- ・中学校3年生 100%で、昨年度より25.0ポイント高く、全国平均より39.6ポイント高い。

江別市の小・中学校では、夏休みや冬休みの長期休業中に全ての学校が3日以上「学習サポート」を実施しています。また、5日以上実施している学校の割合は全国平均を大きく上回っています。学習サポートは、全教職員と市で配置している学習サポート教員(退職教員)で行われており、基礎学力の定着に大きな役割を果たしています。

### (3) 家庭学習の課題(宿題)

#### ① 前年度までに、国語の指導として「家庭学習の課題(宿題)をよく与えた」

- ・小学校6年生 73.7%で、昨年度より26.3ポイント高く、全国平均より9.0ポイント低い。
- ・中学校3年生 12.5%で、昨年度より25.0ポイント低く、全国平均より36.0ポイント低い。

#### ② 前年度までに、算数・数学の指導として「家庭学習の課題(宿題)をよく与えた」

- ・小学校6年生 78.9%で、昨年度より15.7ポイント高く、全国平均より6.0ポイント低い。
- ・中学校3年生 50.0%で、昨年度より12.5ポイント低く、全国平均より3.0ポイント低い。

国語や算数・数学の宿題をよく与える割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を大きく下回っています。江別市の児童生徒は家庭で「自分で計画を立てて勉強している」、「学校の授業の復習をしている」割合は全国平均を上回っていますが、「宿題をしている」割合は多くありません。学習内容を確実に定着させるためには、学校が宿題を計画的に与えるとともに、家庭において確実に取り組ませることが大切です。

**(4) ICT を活用した授業**

**① 前年度、算数・数学の授業でパソコンや電子黒板、実物投影機等を活用した授業を週1回以上行った**

- ・小学校6年生 57.9%で、全国平均より 40.6 ポイント高い。
- ・中学校3年生 25.0%で、全国平均より 16.6 ポイント高い。

パソコンや電子黒板、実物投影機などを活用した授業の実施状況は、小・中学校ともに全国平均を大きく上回っています。江別市では、本年度すべての学級に電子黒板を設置し、児童生徒の学習意欲を高め、分かりやすい授業が行われるよう、ICT を活用した授業を積極的に推進しています。